

「ネット右翼」性と一般的「右傾」性との乖離

ウェブ質問紙調査の分析結果から

大阪大学

辻 大介

1 問題

「嫌韓嫌中」を基調とした「愛国」、すなわち排外的ナショナリズムの発露としてイメージされることの多い「ネット右翼」は、一般に「2000年代の日本における若年層の右傾化の象徴とみな」されている¹。しかし「ネット右翼」は、基本的にはあくまで一部特定の層にすぎない。はたしてそれは、より一般的な（若者における）「右傾」性を代表・凝縮したものであるのだろうか？ 実証的研究に欠けるこの問題について、本報告では、ウェブ質問紙調査の結果から検討する。

2 方法

調査は、ウェブ調査会社マクロミルのモニター20～44歳の男女を対象に2007年10月に行われ、1028ケースの有効回答を得た²。この調査では、「ネット右翼」的な層を、次のように操作的に定義した。(a)「韓国」「中国」いずれにも親しみを「あまり」「まったく」感じない。かつ、(b)「首相や大臣の靖国神社への公式参拝」「憲法9条1項（戦争放棄）の改正」「憲法9条2項（軍隊・戦力の不保持）の改正」「小中学校の式典での国旗掲揚・国歌斉唱」「小中学校での愛国心教育」という5項目中3項目以上に「賛成」「やや賛成」。かつ、(c)この1年ぐらいの間に、政治や社会の問題について、「自分のホームページに、意見や考えを書きこんだ」「他の人のブログに、自分の意見や考えをコメントした」「電子掲示板やメーリングリスト等で議論に参加した」いずれかをしたことが「ある」。これら(a)～(c)の条件を満たす「ネット右翼」的な層は、3.0%（31人）であった。

また、この操作的定義に用いた以外の、「右傾」性に関わるより一般的な設問23項目から、移住外国人排斥感情 移住外国人肯定評価 文化的ナショナル・プライド 政治的ナショナル・プライド 愛国心 の5尺度を構成した（以下、「ナショナル・プライド」は「NP」と略記する）。

3 結果

「ネット右翼」的である層は、ない層に比べ、移住外国人排斥感情 文化的NP 政治的NP 愛国心 が有意に高かった。半ば同語反復的な結果ではあるが、「ネット右翼」的な層が排外的なナショナリズム意識をもっていることが確認された。一方で、各尺度間の相関としては、文化的NP 政治的NP 愛国心 が高いほど、移住外国人肯定評価 が有意に高い傾向がみられた。また、政治的NP 愛国心 が高いほど、「韓国」「中国」への親近感も高かった。

したがって、ナショナル・プライドや愛国心の高さは、排外性に結びつくものではなく、むしろ部分的にはあるが 非排外性（寛容性）と結びつくのが、より一般的な「右傾」性のありようと言えよう。この点で、「ネット右翼」は一般的「右傾」性を代表するものとはみなしにくく、また、近年の若者を中心とした右傾化（仮にそのような変化が実際に進んでいるとして）を排外的なナショナリズムの高まりととらえるのはミスリーディングであると思われる。

¹ ウィキペディア日本語版「ネット右翼」より（<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%88%E5%8F%B3%E7%B%BC>：2008年6月20日アクセス）。

² 本調査研究は、財団法人日本証券奨学財団の平成18年度研究調査助成金によっておこなわれた。調査票設計にあたっては、共同研究者の北田暁大（東京大学）、鈴木謙介（国際大学GLOCOM）、両氏の協力を得た。記して感謝したい。